

## 豪雨災害を受け

### 水防対策初会合

開発局と道の委員会

今夏の豪雨災害を受け、

国土交通省北海道開発局と道が28日、今後の水防対策を検討する委員会（委員長＝山田正・中央大教授）の初会合を開いた。今年度中に報告書をまとめる。

初会合では、土木学会の

調査団長を務めた清水康行・北大大学院教授が被害状況を説明。「堤防は現状復旧ではなく、広範囲での対策が必要」と指摘した。山田朋人・北大大学院准教授は、地球温暖化で平均気温が2度上昇すると道内の降水量は1・2倍程度増えるとし、「優先的に気候変動対策を考えるべきだ」と訴えた。関克己・京都大大学院客員教授は、道内の防災施設が老朽化して治水安全度が低下していると指摘。「何もしないと災害の頻度は高まっていく。ハード、ソフト両面の役割をもう一度見直していくべきだ」と呼びかけた。

（大久保泰）